

実務経験のある教員等による授業科目一覧【柔道整復学科／昼間Ⅰ部】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
整形外科学 2	2	山田 真人		
骨折総論	1	黒木 文葉		
脱臼・軟部組織損傷総論	1	越智 建太		
軟部組織損傷各論	2	社 由洋	水江 弘太	
固定法総論①	1	安部 良太郎		
固定法総論②	1	水江 弘太	山根 弘樹	
治療法総論	1	越智 建太		
基礎柔道整復学 1	1	村岡 太介		
基礎柔道整復学 2	1	村岡 太介		
基礎柔道整復学3	1	村岡 太介		
頭部・体幹・上肢帯の骨折	1	桑野 幸仁		
上腕の骨折	1	桑野 幸仁		
前腕・手部の骨折	1	黒木 文葉		
下肢の骨折	2	桑野 幸仁	黒木 文葉	
上肢の脱臼	1	越智 建太		
下肢の脱臼	1	越智 建太		
臨床演習 1	1	半田 光		
臨床演習 2	1	越智 建太		
臨床演習 3	1	宮越 亮典		
総合柔道整復学	9	山田 真人	山根 弘樹	社 由洋
		新地 秀臣	半田 光	黒木 文葉
柔整実技 1（基礎固定）	2	山根 弘樹	越智 建太	
柔整実技 2（総合①）	1	水江 弘太		
柔整実技 3（総合②）	2	半田 光		
柔整実技 4（骨折）	1	黒木 文葉		
柔整実技 5（脱臼）	1	山根 弘樹		
柔整実技 6（軟損）	1	社 由洋		
柔整実技 7（総合③）	14	社 由洋	黒木 文葉	村岡 太介
		半田 光	山根 弘樹	水江 弘太
		山田 真人	宮越 亮典	
臨床実習Ⅰ	1	社 由洋		
臨床実習Ⅱ	1	社 由洋		
臨床実習Ⅲ	1	社 由洋		
臨床実習Ⅳ	1	社 由洋		
合 計	57			

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	科学1					担当者名		菅 典雄				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	科学の中でも主に社会科学（経済学）に着目し、資本主義経済の成り立ちにはじまり、柔道整復施術（整骨院）にかかわる技術やものの評価について学ぶ。											
到達目標	①治療院の経営（利益・集客・マーケティング）を理解し説明することができる。 ②ドラッカーとコトラーの定義を理解し、より良いリーダーになる為に必要なことが説明ができる、											
成績評価	定期試験および追・再試験の結果を総合的に各鞍して評価する。											
その他	菅 典雄(実務経験なし)											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	科学・経済学入門・地域包括ケア
2	成功治療院の条件 柔道整復師とは
3	サクセスストーリーはプロフェッショナルが作る
4	治療院の経営
5	共感の治療とは
6	口動人より行動人たれ
7	より良いリーダーになるには
8	仕事人は荒野を目指せ
9	ドラッカーの経営学
10	ドラッカーのイノベーション
11	ドラッカーのマネジメント
12	ドラッカーのコンセプト
13	コトラーの経営学
14	利益・集客のマーケティング・皆がリーダー
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	科学2					担当者名		井浦 ひとみ				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	臨床現場で応用できる知識を身につける。											
到達目標	①働くという事を理解し、ビジネスマナーの基本（挨拶・身だしなみ・話し方）を身に着け、活用できる。 ②就業中のマナーやルール（報告・連絡・相談）の必要性について理解し説明ができる。											
成績評価	期末試験・知識及び授業態度を総合して評価する。											
その他	井浦 ひとみ（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	キャリアと豊かな仕事生活＞働くということ
2	キャリアと豊かな仕事生活＞仕事への取り組み方 ビジネスマナーの基本
3	ビジネスマナーの基本＞ビジネスマナーは社会人としての基本 職場でのコミュニケーション
4	ビジネスマナーの基本＞円滑なコミュニケーションのために 社会人としての身だしなみ
5	就業中のマナー＞入社から退社までの基本ルール
6	就業中のマナー＞仕事での態度や行動 感じのよい挨拶
7	就業中のマナー＞感じのよい挨拶 おじぎの基本とお客さまとの接し方
8	指示の受け方と報告 ・ 連絡 ・ 相談＞指示を受け話を聞くポイント
9	指示の受け方と報告 ・ 連絡 ・ 相談＞報告の仕方
10	指示の受け方と報告 ・ 連絡 ・ 相談＞中間報告 ・ 相談と忠告の受け方
11	マナーの模擬試験
12	話し方の基本＞印象がよくビジネスにふさわしい話し方 ビジネスの場にふさわしい言葉づかい
13	話し方の基本＞プレゼンテーションの基本と自己紹介
14	理解度チェック、試しにやってみよう！
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
	○										
授業科目名	保健体育理論1					担当者名		得本 啓次			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。 適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本講義は生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得を目指す。										
到達目標	①日本の生涯スポーツの現状を理解し説明できる。 ②児童期、高齢期の運動指導の重要性が理解でき指導できる。 ④生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得する。										
成績評価	レポート30%，試験70%										
その他	得本 啓次(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	1) ガイダンス, 2) 生涯スポーツトレーナーとは 【動画: 水嶋理事長】, 3) 生涯スポーツトレーナー概論 (教本)
2	1) e-learning人体の区分と名称, 身体の方角をあらわす用語, 代表的な関節運動, 脊柱 2) 解剖生理学, 3) 骨の役割, 骨の構造, 筋の分類, 骨格筋について, 4) 骨と関節
3	1) e-learning, 筋収縮のメカニズム①②(8分)(6分), 2) 筋肉のしくみとはたらき (教本)
4	1) e-learning「スポーツ」「運動」の必要性 (7分), ファンクショナルトレーニングとは (14分), 正しい姿勢とプランク (24分)
5	1) e-learning, 基礎動作の重要性上肢の動きについて, 下肢の動きについて, 2) 発達障害と不器用さ, 3) 全身を運動させた回旋運動について
6	1) e-learning, プログラミングの重要性について (12分), 運動指導におけるコーチングについて (31分)
7	1) e-learning子ども、高齢者運動指導の基礎知識 (22分), 高齢者の運動指導 (23分), 2) 児童期の運動指導 (17分),
8	1) 高齢者の身体とトレーニング (教本), 2) 子供の身体とトレーニング (教本)
9	1) e-learning医療行為と医療類似行為 (11分), 禁止事項 (11分),
10	1) 用語解説 (教本)
11	1) スポーツ心理学
12	1) 栄養素の基礎知識, 2) 身体づくりと栄養
13	1) エネルギー代謝 (ATP再合成)
14	1) 股関節ストレッチバンド使用方法
15	1) 生涯スポーツトレーナーベーシック試験兼終講試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校						
	○						令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部						
授業科目名	保健体育理論2					担当者名		進藤 和代、長野 史尚、得本 啓次					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期		後期		前期		後期	
									30				
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要な不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。生涯スポーツトレーナー（アドバンス）の資格取得を目指す。												
到達目標	①日本の生涯スポーツの現状を把握する。②様々な生涯スポーツ、生涯運動を理解し実施できる。③健康寿命の延伸のための知識を理解する。④生涯スポーツトレーナー（アドバンス）の資格取得する。												
成績評価	定期試験、平常点（出席率、発表、提出物）を総合して評価を行う。												
その他	進藤 和代（実務経験なし）、長野 史尚（実務経験なし）、得本 啓次（実務経験なし）												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生涯スポーツトレーナー教本 背骨コンディショニング	水嶋昭彦	BABジャパン
参考図書	世界一わかりやすいパーソナルストレッチ 背骨コンディショニングパーソナルトレーナー教		

回数	授 業 計 画	
1	ガイダンス（受講上の注意等）、生涯スポーツトレーナーアドバンスについて、柿谷先生動画視聴	
2	ストレッチ	
3	背骨コンディショニング 基礎理論, アライメントチェック	
4	背骨コンディショニング 体操	
5	パーソナルストレッチ	シェイキング, ムービング（上半身）DVD使用
6	パーソナルストレッチ	シェイキング, ムービング（下半身）DVD使用
7	ファンクショナルトレーニング	日常で出来る運動
8	ファンクショナルトレーニング (プランク、プル、プッシュ、ヒンジ、スクワット、ランジ、ローテーション)	運動/つ基礎動作
9	ティーボール 1/4 講義	概論, 必要性, 魅力
10	ティーボール 2/4 講義	ルール, 審判方法, 運営方法, 指導法
11	ティーボール 3/4 実技	捕る投げる打つの基礎動作
12	ティーボール 4/4 実技	ゲーム形式練習
13	高齢者運動指導	
14	子どもの運動指導	
15	総括・課題作成提出	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	保健体育演習1					担当者名		芹田 剛（新地 秀臣）				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道教育は競技を目的とするものではなく柔道整復師の技術のバックボーンである手技や人格の形成、心身の鍛錬を目的とし、人としての振舞いの基本、礼儀作法の習得を最終目標とする。											
到達目標	①武道の精神、柔道と柔道整復師の関係を学び身に着ける。 ②柔道を通し柔道整復術の成り立ちを学び、活用できる。 ③身だしなみ、礼法、受身、立技、寝技の技を修得する。											
成績評価	授業態度及び定期試験を総合して評価する。											
その他	芹田 剛（実務経験なし）新地 秀臣（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	なし				
参考図書	イラスト柔道の形		品川区柔道会		五月書房

回数	授 業 計 画
1	柔道着着用時の注意事項、帯の結び方説明 ①各種礼法、動作説明、②自然本体説明（右、左）③各種受け身方法説明
2	①②③復習
3	①②③④釣手、引手の説明 ⑤投技㊦大腰説明
4	①②③復習 ⑤投技㊦復習と④背負い投げ説明
5	①②③復習 ⑤投技㊦④復習
6	①②③復習 ⑤投技㊦④復習と㊵体落説明
7	①②③復習 ⑤投技㊦④㊵復習
8	①②③復習 ⑤投技㊦④㊵復習と㊶払腰説明
9	①②③復習 ⑤各投技㊦④㊵㊶復習
10	①②③復習 ⑤各投技㊦④㊵㊶復習 ⑥崩し説明、その方法等
11	①②③復習 ⑤各投技、⑥を使って㊦～㊶練習 投の形㊦浮落説明
12	①②③復習 ⑤各投技、⑥を使って㊦～㊶練習 投の形㊦復習と⑧背負投説明
13	①②③復習 ⑤各投技、⑥を使って㊦～㊶練習 投の形㊦㊸復習と⑨肩車説明
14	①～⑨復習と試験に備え練習等
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	保健体育演習2					担当者名		得本 啓次				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道の礼節・基本的で安全な動きを身につける。この授業では特に投げ技の基本を中心に実技を行う。											
到達目標	①武道の精神、柔道と柔道整復師の関係を学び身に着ける。 ②柔道を通し柔道整復術の成り立ちを学び、活用できる。 ③身だしなみ、礼法、受身、立技、寝技の技を修得する。											
成績評価	授業態度及び定期試験を総合して評価する。											
その他	得本 啓次（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	礼法・前回り受身
2	前回り受身・横受身・後受身
3	背負投(乱取)・受身
4	背負投(乱取)・受身
5	浮落練習①
6	浮落練習②
7	浮落練習③
8	背負投(投げの形)練習・受身
9	背負投(投げの形)練習・受身②
10	肩車(投げの形)・受身
11	肩車(投げの形)・受身
12	大腰(乱取)・受身
13	試験に向け練習
14	試験に向け練習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	外国語					担当者名		工藤 和男				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	「人体の器官」では人体の機能をつかさどる各器官の英語表現を、「英作文演習」では医療現場で使 用される英語表現を学習する。本学習により医療従事者にとっての英語表現の基礎を習得させる											
到達目標	①医療現場で必要な英語（医療用語・教養英語）を学び修得できる。 ②人体の器官やテキストの内容を理解することが出来る。											
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する											
その他	工藤 和男(実務経験なし)											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	授業計画に基づいて資料を作成し都度生徒へ配布		
参考図書	看護英語の基本用語と表現	著者 円城康子/川越栄子	メディカル出版

回数	授 業 計 画
1	人体の器官1（内臓器官）医療現場での英語1（自己紹介）
2	人体の器官2（心臓）医療現場での英語2（病棟案内-1）
3	人体の器官3（消化器官）医療現場での英語3（病棟案内-2）
4	人体の器官4（膵臓の働き）医療現場での英語4（食事）
5	人体の器官5（脳／耳）医療現場での英語5（排泄）
6	人体の器官6（頭部と頸部）医療現場での英語6（入浴）
7	人体の器官7（目）医療現場での英語7（睡眠）
8	人体の器官8（皮膚の構造）医療現場での英語8（病歴聴取-健康上の習慣）
9	人体の器官9（腎臓）医療現場での英語9（病歴聴取-排泄）
10	人体の器官10（呼吸器系）医療現場での英語10（病歴聴取-手術、薬、病状）
11	人体の器官11（口と歯）医療現場での英語11（血圧検査／体温検査）
12	人体の器官12（脊髄／末梢神経）医療現場での英語12（血液検査／尿、便検査）
13	人体の器官13（体循環／血管）医療現場での英語13（投薬）
14	人体の器官14（全身の骨格）医療現場での英語14（注射、包帯）
15	期末試験



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	解剖学1①（骨格系）					担当者名		水江 弘太				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	人体の構造と形態を中心に、機能および臨床との関連において教授する。ここでは、解剖学の総論に加えて特に肉眼で見ることができる巨視解剖学のうち、運動系として骨格系の講義を行う。											
到達目標	①骨や関節の構造や用語について理解し、説明できる。 ②骨（体幹・上肢・下肢）の構造を理解し、図に示すことや、身体に触れその部位の名称を説明できる。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他	水江 弘太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	解剖学 改訂第 2 版		岸清ほか著		医歯薬出版
参考図書	人体解剖学		藤田恒太郎		南江堂

回数	授 業 計 画
1	運動学系（骨格系－ 1 総論-骨の役割、骨の形状による分類、骨の構造、骨の発生と成長）
2	運動学系（骨格系－ 1 総論-骨表面の形状（性状）についての用語、骨の連結）
3	運動学系（骨格系－ 2 各論-脊柱）
4	運動学系（骨格系－ 2 各論-胸郭）
5	運動学系（骨格系－ 2 各論-上肢骨）
6	運動学系（骨格系－ 2 各論-上肢骨）
7	運動学系（骨格系－ 2 各論-上肢の関節）
8	中間試験
9	運動学系（骨格系－ 2 各論-下肢骨）
10	運動学系（骨格系－ 2 各論-下肢骨）
11	運動学系（骨格系－ 2 各論-下肢の関節）
12	運動学系（骨格系－ 2 各論-下肢の関節）
13	運動学系（骨格系－ 2 各論-頭蓋骨）
14	運動学系（骨格系－ 2 各論-顎関節、復習）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	解剖学1②（筋系）					担当者名		山根 弘樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	柔道整復師としての必要な解剖学の知識、ここでは筋肉について講義する。											
到達目標	①身体に触れて、その部位の筋名、起始・停止、作用を答えることが出来る。 ②骨や筋の構造をイメージし、関節運動がどのように行われるか説明することが出来る。											
成績評価	定期試験および追・再試験の結果を総合的に各鞍して評価する。											
その他	山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	解剖学 改訂第 2 版		岸清ほか著		医歯薬出版
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	骨格筋について（形態と起始停止、作用、補助装置、神経）
2	上肢の筋①（上肢帯の筋～肩甲下筋）、上肢帯の筋②（烏口腕筋～肘筋）
3	下肢帯の筋①（腸腰筋～大腿方形筋）
4	下肢帯の筋②（縫工筋～外閉鎖筋）
5	頭部、頸部の筋
6	胸部、腹部の筋
7	背部の筋
8	上肢帯の筋③（円回内筋～方形回内筋）
9	上肢帯の筋④（腕橈骨筋から示指伸筋）
10	上肢帯の筋⑤（短母指外転筋～背側骨間筋）
11	下肢帯の筋③（大腿二頭筋～短腓骨筋）
12	下肢帯の筋④（下腿三頭筋～短指伸筋）
13	下肢帯の筋⑤（母指外転筋～背側骨間筋）
14	総復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	解剖学1③					担当者名		越智 建太				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	人体の構造と形態を中心に、機能および臨床との関連において教授する。ここでは、解剖学の総論に加えて特に肉眼で見ることができる巨視解剖学のうち、運動系として骨格・筋系の講義を行う。											
到達目標	①身体に触れて、その部位の筋名、起始・停止、作用を答えることが出来る。 ②骨や筋の構造をイメージし、関節運動がどのように行われるか説明することが出来る。 ③体幹の骨や筋に構造を理解し、特徴を説明できる。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他	越智 建太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第 2 版	岸清ほか著	医歯薬出版
参考図書	人体解剖学	藤田恒太郎	南江堂

回数	授 業 計 画
1	上肢骨・上肢の関節（p 36～42）上肢の筋（p 92～102）
2	上肢骨・上肢の関節（p 36～42）上肢の筋（p 92～102）
3	上肢骨・上肢の関節（p 36～42）上肢の筋（p 92～102）
4	上肢骨・上肢の関節（p 36～42）上肢の筋（p 92～102）
5	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
6	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
7	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
8	中間試験
9	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
10	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
11	脊柱（p 28）・背部の筋（p 88～90）腹部の筋（p 85～88）
12	頭蓋（59）・頭部の筋、頸部の筋（p 76～81）
13	胸郭（p 33）・胸部の筋、呼吸筋（p 81～84）
14	脊柱（p 28）・背部の筋（p 88～90）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	解剖学2①（脈管系）					担当者名		野代 悦生				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	人体の構造と形態を中心に機能および臨床との関連において教授する。ここでは、解剖学の総論に加えて、脈管系の講義を行う。											
到達目標	①解剖学を学ぶ目的を理解し、意義や分類を説明することが出来る。 ②心臓の位置と構造を三次元的にイメージし、その基本的な構造と働きを説明できる。 ③体循環・肺循環・静脈・胎児循環・リンパについて図に示し説明することが出来る。											
成績評価	原則として定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他	野代 悦生（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	解剖学 改訂第 2 版		全国柔道整復学校協会		医歯薬出版
参考図書	人体解剖学		藤田恒太郎		南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体解剖学概説（意義と分類・細胞および組織）
2	人体解剖学概説（発生・器官系統）
3	人体解剖学概説（人体の区分）
4	体循環と肺循環
5	血管の形態と構造
6	心臓の位置と形態、心臓の構造、心臓の弁、心臓壁の構造
7	刺激伝導系、心臓の脈管、心臓の神経、心膜
8	中間試験
9	肺循環
10	体循環（大動脈～胸大動脈）
11	体循環（腹大動脈～下肢の動脈）
12	静脈系
13	胎児循環
14	リンパ系
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	解剖学2②（内臓系）					担当者名		豊野 孝				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	柔道整復師になるために必要な解剖学の基本知識として、ここでは内臓系に着目して講義を行う。											
到達目標	①消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器の位置と構造を三次元的にイメージし、その基本的な構造と働きを説明できる。 ②諸器官の機能を一体として把握し説明できる。											
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する											
その他	豊野 孝（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	解剖学		全国柔道整復学校協会		医歯薬出版
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	消化器の種類と構造①（口、口腔腺、咽頭、食道）
2	消化器の種類と構造②（胃、小腸、大腸、肝臓）
3	消化器の種類と構造③（胆道、膵臓、腹膜）
4	呼吸器の働き・呼吸器①（外鼻、鼻腔と副鼻腔、咽頭）
5	呼吸器の働き・呼吸器②（喉頭、気管および気管支）
6	呼吸器の働き・呼吸器③（肺、胸膜、縦隔）
7	泌尿器の働き①（腎臓）
8	中間試験
9	泌尿器の働き②（尿管、膀胱、尿道）
10	生殖器の働き、男性生殖器（精巣と精巣上体、精管、精嚢）
11	生殖器の働き、男性生殖器（付属生殖器、陰茎と陰嚢）
12	生殖器の働き、女性生殖器（卵巣、卵管、子宮）
13	生殖器の働き、女性生殖器（膣、外陰部、会陰）
14	生殖器の働き、女性生殖器（卵巣と子宮粘膜の周期的変化、胎盤）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	解剖学3①（内分泌・感覚）					担当者名		野代 悦生				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	人体の構造と形態を中心に機能および臨床との関連において教授する。ここでは、解剖学の内分泌系、感覚器および体表解剖の骨格系の講義を行う。											
到達目標	①内分泌系の構造を理解し、それぞれの役割と他の組織とのつながりを説明できる。 ②感覚器系の構造と働きを理解し説明できる。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他	野代 悦生（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	解剖学 改訂第2版		(社)全国柔道整復学校協会監修		医歯薬出版
参考図書	人体解剖学		藤田恒太郎		南江堂

回数	授 業 計 画
1	内分泌系、内分泌系の働き
2	内分泌器
3	感覚器、A 外皮
4	B 視覚器
5	C 聴覚器および平衡器
6	平衡覚路と聴覚路および平衡覚中枢と聴覚中枢
7	D 味覚器、臭覚器
8	中間テストおよび解説
9	体表解剖、A 体表区分
10	B 骨格系
11	C 筋 系
12	D 脈管系
13	E 神経系, F 目, 耳, 鼻, 口
14	G 外皮, H 生体計測
15	期末試験（60分）、試験終了後、解答および解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	解剖学3②（神経）					担当者名		豊野 孝				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道整復師になるために必要な解剖学の基本知識として、ここでは神経系に着目して講義を行う。											
到達目標	①神経系の区分や分類、役割とつながりを理解し、説明ができる。 ②脳神経、脊髄神経、末梢神経、デルマトームについて区分やつながりを理解し説明できる。 ③交感神経と副交感神経の働きについてイメージし説明できる。											
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する											
その他	豊野 孝（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名	
教科書	解剖学 改訂第 2 版		全国柔道整復学校協会		医歯薬出版	
参考図書						

回数	授 業 計 画
1	神経系の区分と特徴・神経組織（P217-220）
2	灰白質、白質と神経節、根・髄膜と脳脊髄液（P221-223）
3	脳・各部の形態と機能（P223-229）
4	脊髄・区分（P230-233）
5	伝導路（P233-236）
6	末梢神経・脳神経①（P238-241）
7	脳神経②（P241-245）
8	中間試験
9	脊髄神経後枝・頸神経叢・腕神経叢（P245-247）
10	胸神経・腰神経・仙骨神経叢（P248-252）
11	陰部神経・尾骨神経・デルマトーム（P252-255）
12	交感神経系（PP256-257）
13	副交感神経系（P258-259）
14	関連痛（P259）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	生理学1①（循環）					担当者名		五島 志織				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	柔道整復師として必要な生理学の知識を丁寧に指導していく。国家試験の傾向も踏まえ、講義とともに問題演習も行い、知識を定着させる。											
到達目標	①各臓器や組織の役割と働きを理解し、人体の恒常性、循環機能について説明することができる。 ②呼吸のしくみや異常な状態について理解することができる。											
成績評価	原則として各単元テスト、中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。											
その他	五島 志織（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	生理学（改訂第3版）		根来英雄ほか著		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	生理学の基礎（A生理学とは、B人体を構成する要素、Cホメオスタシス）
2	生理学の基礎（Dからだの科学的構成）
3	生理学の基礎（E細胞の機能的構造、F拡散、浸透、ろ過）
4	生理学の基礎（G受動輸送と能動輸送、Hエンドサイトーシスとエクソサイトーシス）
5	生理学の基礎（A血液の役割、B血液の組成）
6	血液の生理学（C免疫機能）
7	血液の生理学（D血液型、E血液の凝固）
8	中間試験
9	循環の生理学（A心臓の機能）
10	循環の生理学（A心臓の機能、B血管系、Cリンパ管系）
11	循環の生理学（D循環の調節、E局所循環、F脳脊髄液循環）
12	呼吸の生理学（A呼吸器の機能的構造、B換気）
13	呼吸の生理学（Cガス交換、D血液中の酸素の運搬、E血液中の二酸化炭素の運搬）
14	呼吸の生理学（F呼吸を調節する仕組み、G呼吸の異常、H特殊環境下の呼吸、I人工呼吸）
15	期末試験



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	生理学1②（内臓）					担当者名		臼井 通彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	柔道整復師として必要な生理学の知識を丁寧に指導していく。国家試験の傾向も踏まえ、講義とともに問題演習も行い、知識を定着させる。											
到達目標	①消化と吸収、栄養と代謝について各組織の役割を理解し、説明することができる。 ②尿の生成と排泄、男性生殖器系の構成（精子形成）と女性生殖器の構成（月経周期）を説明できる。											
成績評価	原則として各単元テスト、中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。											
その他	臼井 通彦（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生理学（改訂第3版）	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	消化と吸収①（消化器系の働き、運動と調整、消化液の分泌機序）
2	消化と吸収②（消化、吸収）
3	消化と吸収③（消化管ホルモン）
4	消化と吸収④（肝臓と胆道系）
5	栄養と代謝①（代謝）
6	栄養と代謝②（中間代謝、エネルギー代謝）
7	体温とその調節（体温、体温の日内変動、熱の産生、熱放散、体温調節、うつ熱と発熱、気候馴化）
8	中間試験
9	尿の生成と排泄①（腎の構造と機能、糸球体ろ過量）
10	尿の生成と排泄②（尿細管による再吸収）
11	尿の生成と排泄③（尿細管による分泌、尿の成分、排尿）
12	生殖①（性染色体とその異常、性分化、男性生殖器系の構成、精子形成、勃起と射精）
13	生殖②（女性生殖器の構成、月経周期）
14	生殖③（卵巣周期中のゴナドトロピンと卵巣、妊娠と分娩、乳汁分泌）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	生理学2①（内分泌・運動）					担当者名		臼井 通彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道整復師として必要な生理学の知識を丁寧に指導していく。国家試験の傾向も踏まえ、講義とともに問題演習も行い、知識を定着させる。											
到達目標	①諸器官の携帯・構造および機能を一体として把握することが出来る。 ②主要なホルモンの分類と役割について説明することが出来る。 ③骨・筋の機能について理解し説明することが出来る。											
成績評価	原則として各単元テスト、中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。											
その他	臼井 通彦（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第3版	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	内分泌系の機能（A 内分泌腺B ホルモンの一般的性質C ホルモンの種類と作用）
2	内分泌系の機能（D 視床下部のホルモンE 下垂体のホルモンF 甲状腺のホルモン）
3	内分泌系の機能（G 副腎皮質のホルモンH 副腎髄質のホルモン I 膵臓のホルモン）
4	内分泌系の機能（J 精巣のホルモンK 卵巣のホルモン）
5	骨の生理学（A 骨の構造B 骨の形成と成長C 骨の再吸収と再形成D カルシウム代謝とリン代謝）
6	骨の生理学（E ビタミンD F 上皮小体ホルモンG カルシトニンH 骨の病気）
7	体液の生理学（A 体液の区分と水バランスB 体液のイオン組成C 体液の恒常性を維持する仕組み）
8	中間試験
9	筋肉の機能（A 筋肉の種類とその特徴B 骨格筋の構造C 筋収縮の仕組み）
10	筋肉の機能（D 筋細胞膜を興奮させるしくみE 骨格筋の収縮の仕方）
11	筋肉の機能（F 筋肉の長さ と 張力 の 関係G 筋収縮のエネルギー）
12	筋肉の機能（H 筋の熱発生 I 筋電図）
13	筋肉の機能（J 平滑筋）
14	筋肉の機能（K 心筋）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	生理学2②（神経・感覚）					担当者名		五島 志織				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道整復師として必要な生理学の知識を丁寧に指導していく。国家試験の傾向も踏まえ、講義とともに問題演習も行い、知識を定着させる。											
到達目標	①神経の基本的な構造、機能、特徴について理解し、説明できる。 ②感覚の生理学について理解し、説明できる。											
成績評価	原則として各単元テスト、中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。											
その他	五島 志織（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	生理学 改訂第4版		根来英雄ほか著		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	神経の基本的機能（A 神経細胞の形態 B 静止膜電位 C 活動電位 D 閾刺激）
2	神経の基本的機能（E 全か無かの法則 F 不応期 G イオンチャネル）
3	神経の基本的機能（H 興奮伝導 I 複合活動電位）
4	神経の基本的機能（J 興奮伝導）
5	神経系の機能（A 神経系の成り立ち）
6	神経系の機能（A 神経系の成り立ち）
7	神経系の機能（A 神経系の成り立ち）
8	中間試験
9	神経系の機能（A 神経系の成り立ち B 内臓機能の調節 C 内臓機能の視床下部による調節）
10	神経系の機能（C 内臓機能の視床下部による調節）
11	神経系の機能（D 姿勢と運動の調節 E 高次機能）
12	感覚の生理学（A 感覚の種類 B 感覚の一般的性質）
13	感覚の生理学（C 体性感覚 D 内臓感覚 E 嗅覚と味覚）
14	感覚の生理学（F 聴覚 G 視覚 H 前庭感覚）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	運動学①					担当者名		山根 弘樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	運動学を中心に筋などを講義する。											
到達目標	①骨や筋の基礎を復習し、実際の身体を触れながら正常な運動を説明できる。 ②各関節運動の種類や分類とどのように運動が行われているのか説明できる。											
成績評価	定期試験および受講態度・理解度等を総合的に評価します。											
その他	山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動学	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	PTOTから基礎から学ぶ運動学ノート	中島喜代彦	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	肩関節の構造・問題演習（P90-91）、肩の運動・講義（P93-97）
2	肘の構造・問題演習（P98-100）、肘と前腕運動に関わる筋・講義（P97-103）
3	手関節構造・問題演習（P104-109）、手関節運動に関わる筋・講義（P97-120）
4	上肢帯の運動・講義（P86-89）、上肢帯の構造・問題演習（P84-85）
5	下肢帯の構造・解剖講義（P122-124）
6	下肢の解剖学・問題演習（P124-126）、股関節の運動に関わる筋・講義（P132-137）
7	股関節に関わる筋②（133-17）、下肢の解剖学問題演習（P127-131）
8	中間試験
9	膝の構造・問題演習（P138-142）、膝の運動に関わる筋・講義（P143-149）
10	足関節の構造・問題演習（P150-153）、足関節の運動学・講義（P154-164）
11	体幹の運動学・講義（P166-170）
12	頸部の運動・講義（P173-177）、頸部の解剖・問題演習（P171-172）
13	胸部と呼吸・問題演習（P184-185）、体幹の運動学・講義（P166-183）
14	腰部の構造と骨盤傾斜・講義咀嚼・講義（P186-200）、腰部・骨盤・仙腸関節構造問題演習頭蓋骨解剖・問題演習（P184-185・192-193）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	運動学②					担当者名		越智 建太				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	人体の構造と形態を中心に、機能および臨床との関連において教授する。ここでは、運動系の講義を行う。											
到達目標	問題演習の中で①骨や筋の基礎を反復して復習し、実際の身体を触れながら正常な運動を説明できる。 ②異常な運動や代償運動により、何が障害されているのか、反復して復習し、考察出来る。											
成績評価	原則として定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他	越智 建太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	解剖学 改訂第 2 版		全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	P T ・ O T 基礎から学ぶ運動学ノート		中島雅美中島喜代彦編 第2版		医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	上肢の解剖学、上肢帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節（p 72～105）
2	①の問題演習
3	下肢の解剖学、股関節・膝関節・足関節（p 122～160）
4	①③の問題演習
5	体幹の解剖学、頸部の運動、胸部の運動、骨盤部の運動（p 166～188）
6	①③⑤の問題演習
7	①③⑤の問題演習
8	①③⑤の問題演習
9	①③⑤の問題演習
10	①③⑤の問題演習
11	①③⑤の問題演習
12	①③⑤の問題演習
13	①③⑤の問題演習
14	①③⑤の問題演習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	運動生理学①					担当者名		井手 貴治 大崎康吉				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	人間の運動に関する基本的な知識を習得する。主に力学や運動器の構造機能、姿勢、歩行、上肢や下肢の運動、脊柱の運動、下肢帯と下肢の運動、上肢帯と上肢の運動について学習する。											
到達目標	①運動学の目的と表し方、力学的エネルギーや運動の法則について学び説明ができる。 ②反射や運動感覚について説明が出来る。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に評価する。											
その他	大崎 康吉、井手 貴治（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	運動学 第3版		斉藤宏ほか著		医歯薬出版
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	運動学の目的
2	運動の表し方
3	身体運動と力学①
4	身体運動と力学②
5	運動器の構造と機能①
6	運動器の構造と機能②
7	復習
8	中間試験
9	神経の構造と機能①
10	神経の構造と機能②
11	運動感覚①
12	運動感覚②
13	反射と随意運動①
14	反射と随意運動②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	運動生理学②					担当者名		大崎 康吉、井手 貴治				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	人間の運動に関する基本的な知識を習得する。主に力学や運動器の構造機能、姿勢、歩行、上肢や下肢の運動、脊柱の運動、下肢帯と下肢の運動、上肢帯と上肢の運動について学習する。											
到達目標	①姿勢と歩行について理解し、説明することが出来る。 ②高齢者やスポーツ競技者の運動について理解することが出来る。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に評価する。											
その他	大崎 康吉、井手 貴治（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	運動学 第3版		斉藤宏ほか著		医歯薬出版
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	姿勢①
2	姿勢②
3	姿勢③
4	歩行①
5	歩行②
6	歩行③
7	運動発達と運動学習
8	中間試験
9	運動学習
10	生理学（高齢者の生理学）①
11	生理学（高齢者の生理学）②
12	生理学（スポーツ競技者の生理学）①
13	生理学（スポーツ競技者の生理学）②
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	病理学概論					担当者名		五島 志織				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	病気の根底にある「細胞、組織、器官の形態的・機能的変化」をテーマとして扱う専門領域である。2年次の病理学講義では、病気の引き金となる異常な刺激に対する細胞や組織の基本的反応について、主に総論的に、あらゆる組織・臓器に共通する一般通則として論ずる。前期の「病理学Ⅰ」では、病理学の学問的枠組み、疫病一般の概説、退行性病変、進行性病変、循環障害、炎症について解説する。											
到達目標	①病理学・疾病一般についての意義・分類を知る。②基礎と観察方法について理解し、修得する。 ②細胞障害・循環障害・進行性病変・炎症・腫瘍などの形態変化を理解し、修得する。											
成績評価	中間試験の成績を20%、期末試験の成績を80%に換算し、その成績が60点以上で合格とする。											
その他	五島 志織（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	病理学概論（改訂第3版）	関根一郎	医歯薬出版
参考図書	標準病理学（第4版）	坂本穆彦ら	医学書院

回数	授 業 計 画
1	疾病の一般～細胞障害（1）（教科書p1～p15）
2	細胞障害（2）（教科書p15～p27）
3	循環傷害（1）（教科書p30～p41）
4	循環傷害（2）（教科書p42～p47）
5	進行性病変（2）（教科書p49～p56）
6	移植（教科書p57～p60）
7	炎症（教科書p61～p68）
8	中間試験
9	免疫異常（教科書p72～p80）
10	免疫異常②/アレルギー（教科書p80～p84）
11	腫瘍（教科書p86～）
12	腫瘍②良性腫瘍と悪性腫瘍（教科書 p 100～111）
13	先天性異常
14	病因
15	期末試験（試験範囲：1～6）および試験問題解説



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	リハビリテーション医学					担当者名		宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
										30		
授業概要	リハビリテーション医学の広い知識を身につけ、技術の向上に努め、医療分野の一翼を担い、社会の要請に応えられる人材の育成を目的とする。そのために、リハビリテーションの概念と歴史、リハビリテーション医学の基礎医学、評価法と診断、治療、実際について学び、最後に福祉との関連を勉強する。											
到達目標	①リハビリテーションの意味や内容を正しく理解し、説明することができる。 ②各疾患に関する評価法、治療法を理解し、説明することができる。 ③関連職種について理解し、活用することができる。											
成績評価	中間試験、定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他	宇田津 明彦（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	リハビリテーション医学（改訂第3版）		（社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	リハビリテーションの概念と歴史・リハビリテーション医学
2	リハビリテーション医学の基礎医学 1（運動学と機能解剖）
3	リハビリテーション医学の基礎医学 2（障害学・治療学）
4	リハビリテーション医学の評価と診断 1（患者のとらえ方・身体計測・関節可動域測定法・中枢性運動障害の評価法・痙縮の評価法）
5	リハビリテーション医学の評価と診断 2（小児運動発達の評価法 1・協調性テスト・失認と失行の評価法・心理評価・日常生活動作の評価）
6	リハビリテーション医学の評価と診断 3（電気生理学的診断法 1・画像診断）・リハビリテーションの治療 1（理学療法 1）
7	リハビリテーションの治療 2（理学療法 2・作業療法 1）
8	中間試験
9	リハビリテーションの治療 3（作業療法 2・補装具 1）
10	リハビリテーションの治療 4（補装具 2・言語治療）
11	リハビリテーション医学と関連職種・リハビリテーションの実際 1 脳卒中・脊髄損傷
12	リハビリテーションの実際 2（小児疾患・切断）
13	リハビリテーションの実際 3（末梢神経損傷・関節リウマチ）
14	リハビリテーションの実際 4（整形外科疾患・心疾患・呼吸器疾患）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	一般臨床医学1					担当者名		宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	診察の基本と内科疾患を中心とした疾患の概念を理解し、柔道整復師が臨床現場で注意を払う必要があるものの症状および所見の理解を深める。											
到達目標	①医療面接（視診・打診・聴診・触診・生命徴候）について正しく理解し、身に着けることができる。 ②各器官別疾患の基礎的な知識や原因・症状を学ぶことができる。											
成績評価	定期試験（中間試験および期末試験）、授業態度、課題への取り組み等を総合的に評価											
その他	宇田津 明彦（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	一般臨床医学 改訂第3版		全国柔道整復学校協会監修		医歯薬出版
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	診察の意義、診察の進め方
2	医療面接
3	視診
4	打診
5	聴診
6	触診
7	生命徴候
8	中間試験
9	感覚検査
10	反射検査
11	代表的な臨床症状①
12	代表的な臨床症状②
13	代表的な臨床症状③
14	検査法
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	一般臨床医学2					担当者名		宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	解剖学、生理学、病理学等の知識をふまえ、個々の疾患を理解していく。											
到達目標	①医療面接（視診・打診・聴診・触診・生命徴候）について正しく理解し、身に着けることができる。 ②柔道整復師の業務上必要な臨床症状を理解し、正しく鑑別できるようにする。											
成績評価	中間・期末試験、授業態度を総合的に評価。											
その他	宇田津 明彦（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	一般臨床医学 改定第3版	奈良信夫ほか	医歯薬出版
参考図書	病態生理で切った生理学	村川裕二	医学教育出版

回数	授 業 計 画
1	内分泌疾患 1
2	内分泌疾患 2
3	内分泌疾患 3
4	血液疾患 1
5	血液疾患 2
6	腎疾患1
7	腎疾患2
8	中間試験
9	神経疾患 1
10	神経疾患 2
11	感染症 1
12	感染症 2
13	膠原病 1
14	膠原病 2
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	外科学概論					担当者名		宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	教科書を中心に臨床的内容も豊富に講義する											
到達目標	①臨床現場で必要となる基本的な外科学疾患を学び、理解することが出来る。 ②柔道整復師の業務範囲内と業務範囲外を理解し、スムーズな医療連携ができるよう、知識を身につける。											
成績評価	中間・期末考査成績による											
その他	宇田津 明彦（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	外科学概論 改訂第4版		全国柔道整復学校協会 監修		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	損傷・熱傷
2	外科感染症
3	腫瘍、ショック
4	輸液、輸血
5	消毒、手術
6	麻酔、移植、免疫
7	出血、止血
8	中間試験
9	心肺蘇生
10	脳
11	呼吸器、頸部
12	心脈管
13	乳腺、消化器
14	エコー 肝
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	整形外科科学Ⅰ					担当者名		宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	臨床の現場で遭遇する個々の疾患に対して、これまで柔道整復実技Ⅰから同Ⅴまでに習得した知識および技術を応用して対応する能力を身につける。 ここでは主に、柔道整復師が遭遇しやすい整形外科的疾患とその見分け方について学習する。											
到達目標	①運動器の構造と機能を理解し説明できる。 ②整形外科の診察法・検査法・治療法を理解し、活用することが出来る。											
成績評価	筆記および実技試験の成績、課題の提出状況および取り組み方を総合的に評価。											
その他	宇田津 明彦（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	整形外科科学 施術の適応と医用画像の理解	全国柔道整復学校協会監修	医歯薬出版 南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	運動器の基礎知識、診察法、検査法
2	検査法
3	整形外科科学治療法
4	骨・関節損傷総論
5	スポーツ整形外科
6	感染症疾患
7	骨腫瘍
8	中間試験
9	骨・関節疾患（非感染症）
10	全身性の骨・関節疾患
11	骨端症
12	四肢循環障害
13	神経・筋疾患
14	まとめ
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	整形外科学2					担当者名		山田 真人				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
										30		
授業概要	”臨床の現場で遭遇する個々の疾患に対して、これまで柔道整復実技 1 から同 5 までに習得した知識および技術を応用して対応する能力を身につける。 ここでは主に、柔道整復師が遭遇しやすい整形外科的疾患とその見分け方について学習する。”											
到達目標	①運動器の構造と機能を理解し説明できる。 ②整形外科の診察法・検査法・治療法を理解し、活用することが出来る。 ③各運動器疾患の病因、病態、症候、診断、治療を説明でき、画像診断の理解ができる。											
成績評価	筆記および実技試験の成績、課題の提出状況および取り組み方を総合的に評価。											
その他	山田 真人（病院整形外科において整形外科医として勤務）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	整形外科科学		全国柔道整復学校協会監修		医歯薬出版
参考図書	施術の適応と医用画像の理解		全国柔道整復学校協会監修		南江堂

回数	授 業 計 画
1	身体部位別各論（体幹）
2	身体部位別各論（肩甲帯および上肢）①
3	身体部位別各論（肩甲帯および上肢）②
4	身体部位別各論（肩甲帯および上肢）③
5	身体部位別各論（骨盤および下肢の疾患）①
6	身体部位別各論（骨盤および下肢の疾患）②
7	身体部位別各論（骨盤および下肢の疾患）③
8	中間試験
9	画像診断の理解（X線）
10	画像診断の理解（Ct）
11	画像診断の理解（MRI）
12	画像診断の理解（MR）
13	画像診断の理解（超音波）
14	運動器系の画像
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	関係法規					担当者名		新地 秀臣				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	柔道整復師として業務に従事する上で必要となる柔道整復師法をはじめ、医療福祉法規を理解する。											
到達目標	①柔道整復師として求められる職業倫理、法の意義や体系、目的を理解し、説明できる。 ②柔道整復師として業務に従事するうえで、「柔道整復師法」やその他の必要な医事福祉法規を中心に理解できる。											
成績評価	期末試験、授業態度、課題への取り組み等を総合的に評価。											
その他	新地 秀臣（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	関係法規（改訂第2版）	前田和彦	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	序論、柔道整復師法の目的
2	序論、柔道整復師法の目的②
3	業、免許、資格要件、名簿
4	業、免許、資格要件、名簿②
5	各種申請手続き法
6	各種申請手続き法②
7	国家試験、業務
8	中間試験
9	同意、守秘義務
10	同意、守秘義務②
11	施術所の届出
12	施術所の届出②
13	施術所監督、広告の制限
14	罰則、指定登録機関および指定試験機関試験
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	職業倫理と法律					担当者名		山根 弘樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
										30		
授業概要	医療従事者になる為の職業倫理や臨床現場に出てからの社会的対応をグループワークを通して習得する。また、必要な法律や責任の重さを学習する。											
到達目標	①柔道整復師の業務内容を踏まえ、柔道整復師法の実際の業務内容や他の医療資格の業務内容、医療法との関係を修得する。 ②各ケースごとに各疾患や各外傷が柔道整復師の業務範囲か否か鑑別でき、対応できる。											
成績評価	”中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。”											
その他	山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	川淵孝一・長尾敦彦・前田和彦	医歯薬出版
参考図書	関係法規 改訂第2版	前田和彦	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	A. 医療従事者の職業倫理
2	B. 柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応
3	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅰ」
4	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅱ」
5	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅲ」
6	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅳ」
7	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅴ・まとめ」
8	中間試験
9	D. グループディスカッション事例①「施術におけるトリアージ」
10	D. グループディスカッション事例②「個人情報、認知症の対応」
11	D. グループディスカッション事例③「柔道整復師と整体師」
12	E. 医療における情報と責任
13	社会保険関係法規①「健康保険法」「国民健康保険法」
14	社会保険関係法規②「個人情報保護に関する法律」
15	期末試験



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	衛生学公衆衛生学					担当者名		五島 志織				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	地域の医療・保健を担う柔道整復師として必要な健康の概念、感染対策、環境対策および食品衛生にかかる知識について概説するほか、衛生行政機構や医療保険の制度について学ぶ。											
到達目標	①基本的な衛生・公衆衛生学の知識を習得する、又柔道整復師としての勤務・開業した後の公衆衛生活動に役立てることができる。 ②感染症や予防法、健康管理について説明することが出来る。											
成績評価	試験により評価する。											
その他	五島 志織（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第5版		鈴木庄亮ほか著		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	衛生学とは、WHO憲章
2	疾患、習慣病、予防の分類
3	疾病予防、健康管理
4	感染症
5	消毒
6	環境衛生
7	食中毒、公害
8	中間試験
9	母子保健、学校保健
10	産業保健、成人保健
11	老人保健、高齢者保健
12	精神保健、地域保健
13	国際保健、衛生行政と保険医療制度
14	医療の倫理、安全の確保、疫学
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	医学史					担当者名		竹原 直道				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						15						
授業概要	医学の歴史の流れを概観することによって柔道整復師が医療の一翼を担う医療職であることの自覚を促し、それによって医の倫理感と衛生理念をもった柔道整復師像を確立させることを目的とする。											
到達目標	①柔道整復師として医学史を学び、柔道整復術の成り立ちを理解することが出来る。 ②近代の日本医療制度の成立について学び説明出来る。											
成績評価	定期試験および受講態度、理解度等を総合的に評価します。											
その他	竹原 直道（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	教科書は特に指定せず、プリント中心に行う。		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	医学史を学ぶ意味    古代医学    ヒポクラテスの誓い    ギリシャ医学    ローマ医学
2	解剖学の歴史    わが国の解剖学の発展    インド・中国の医学
3	外科の夜明け    麻酔の歴史
4	消毒の歴史    感染症    性病
5	近代細菌学の発展    公衆衛生の歴史    近世日本医学の発展
6	近代日本医療制度の成立    近代日本医学を築いた人々
7	接骨医学史    医の倫理の歴史
8	試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校						
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部						
授業科目名	保健体育実技1					担当者名		新地 秀臣、芹田 剛					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期		後期		前期		後期	
										30			
授業概要	受身、礼法の習得。投の形（手技、腰技、足技）、投技の間合いを理解させるとともにこれを体得させる。それによって約束乱取りも習得させる。												
到達目標	①武道の精神、柔道と柔道整復師の関係を学び身に着ける。 ②柔道を通し柔道整復術の成り立ちを学び、活用できる。 ③身だしなみ、礼法、受身、立技、寝技の技を修得する。												
成績評価	出席状況、受講中の態度等を総合的に評価する。												
その他	新地 秀臣（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）芹田 剛（実務経験なし）												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	受身、礼法、浮落、背負投
2	受身、浮腰、払腰
3	受身、肩車
4	受身、釣込腰、手技
5	受身、約束乱取
6	受身、送足払
7	受身、約束乱取
8	受身、約束乱取
9	受身、約束乱取
10	受身、約束乱取
11	受身、約束乱取
12	受身、約束乱取
13	受身、約束乱取
14	受身、約束乱取
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	保健体育実技2					担当者名		新地 秀臣、芹田 剛				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	柔道教育は競技を目的とするものではなく柔道整復師の技術のバックボーンである手技や人格の形成、心身の鍛錬を目的とし、人としての振舞いの基本、礼儀作法の習得を最終目標とする。											
到達目標	①武道の精神、柔道と柔道整復師の関係を学び身に着ける。 ②柔道を通し柔道整復術の成り立ちを学び、活用できる。 ③身だしなみ、礼法、受身、立技、寝技の技を修得する。											
成績評価	・評価1／服装・態度    ・評価2／礼法    ・評価3／受身    ・評価／投の形    ・評価5／約束乱取											
その他	新地 秀臣（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務） 芹田 剛（実務経験なし）											

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	なし				
参考図書	イラスト柔道の形		品川区柔道会		五月書房

回数	授 業 計 画
1	①礼法 ②受身 ③投の形、手技、浮落、背負い投げ、肩車 ④乱取等
2	①②③④復習 ⑤足技、送り足払い
3	①②③④⑤ 復習
4	①②③④⑤ 復習 ⑥足技、支え 込足
5	①②③④⑤⑥復習 ⑦足技 内股
6	①②③④⑤⑥⑦ 復習
7	①②③④⑤⑥⑦ 復習
8	①②③④⑤⑥⑦ 復習
9	①②③④⑤⑥⑦ 復習
10	①②③④⑤⑥⑦ 復習
11	①②③④⑤⑥⑦ 復習
12	①②③④⑤⑥⑦ 復習
13	①②③④⑤⑥⑦ 復習
14	試験に備え練習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	医療福祉制度					担当者名		山根 弘樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						15						
授業概要	医療福祉に関する制度を学びその利点と問題点を明らかにし、今後の医療福祉制度の在り方を考える											
到達目標	①社会保障制度、医療保険制度の基本を学び、療養費制度について理解し説明することが出来る。 ②療養費請求や療養費算定について正しく理解し、正しい記載ができる。											
成績評価	定期試験および受講態度、理解度等を総合的に評価します。											
その他	山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	川淵孝一・長尾淳彦・前田和彦著	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	A 社会保障とは B 社会保険制度
2	C 医療保険制度 ①医療保険の目的と意義
3	C 医療保険制度 ②保険診療の概要 ③医療保険財政の現状と課題
4	C 医療保険制度 ④診療報酬制度
5	D 療養費制度の概要 ①療養費とは
6	D 療養費制度の概要 ②柔道整復療養費 ③柔道整復療養費
7	D 療養費制度の概要 ④ 療養費の算定 B 療養費請求のケーススタディ
8	試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	骨折総論					担当者名		黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	柔道整復師として必要な柔道整復理論の知識、ここでは骨折の総論について講義する。										
到達目標	①柔道整復師としての沿革、業務範囲とその心得を正しく理解し説明できる。 ②運動器の各組織の損傷（骨折）を理解し説明できる。 ③柔道整復師が患者へ説明と理解を得る為に柔道整復術の意義や必要性を説明できる。										
成績評価	定期試験および再試験など総合的に評価する。										
その他	黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学 理論編(改正6版)	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	骨の損傷1（骨の形態と機能、骨損傷の概説、分類）
2	骨の損傷2（骨折の症状①）
3	骨の損傷3（骨折の症状②）
4	骨の損傷4（骨折の合併症①）
5	骨の損傷5（骨折の合併症②）
6	骨の損傷6（小児骨折の特徴）
7	骨の損傷7（高齢者骨折の特徴）
8	骨の損傷8（骨折の癒合日数） 中間試験
9	骨の損傷9（骨折の治癒経過）
10	骨の損傷10（骨折の予後）
11	骨の損傷11（骨折の治癒に影響を与える因子）
12	骨の損傷12（骨折の整復法）
13	骨の損傷13（骨折の固定法）
14	総復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	脱臼・軟部組織総論					担当者名		越智 建太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	柔道整復師として必要な柔道整復理論、ここでは脱臼と軟部組織損傷の総論について講義する。										
到達目標	①柔道整復師としての沿革、業務範囲とその心得を正しく理解し説明できる。 ②運動器の各組織の損傷（脱臼・軟部組織損傷）を理解し説明できる。 ③柔道整復師が患者へ説明と理解を得る為に柔道整復術の意義や必要性を説明できる。										
成績評価	期末試験、再試験などを総合的に評価する。										
その他	越智 建太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	関節の構造と形態、関節損傷の概説、脱臼の定義と概説・発生頻度
2	脱臼の定義と概説・発生頻度、脱臼の分類（関節の性状による分類）
3	脱臼の分類（程度による分類、関節面相互の位置による分類）、脱臼の分類（脱臼数による分類、脱臼部と交通の有無による分類）
4	脱臼の分類（外力の働きによる分類・時期による分類・脱臼の経過による分類）、脱臼の分類（頻度と機序による分類）
5	脱臼の症状、脱臼の合併症、
6	脱臼の整復障害、脱臼の予後、脱臼の整復法
7	復習
8	中間試験
9	関節の損傷（捻挫、脱臼） B 関節損傷の概要、 C 関節損傷の分類、 D 損傷される組織、 E 鑑別診断を要する類症
10	関節の損傷（捻挫、脱臼） F 関節構成組織損傷 1・2
11	筋の損傷、腱の構造
12	末梢神経の損傷
13	血管系、リンパ系、皮膚の損傷（まとめ）
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	軟部組織損傷各論①					担当者名		水江 弘太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	柔道整復師が臨床現場で遭遇する軟部組織損傷についてその特徴を知り、病態、症状および徒手検査法を学び、鑑別できる能力を身につける。										
到達目標	①各損傷の特徴を理解し、他の損傷や疾患との鑑別ができるようになる。 ②評価の構成（問診・視診・動診・検査法）を理解し、患者の状態を正確に評価し記録することが出来る。 ③外傷を未然に防ぐ為の知識を身につける										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	水江 弘太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	肩関節部の軟部組織損傷①
2	肩関節部の軟部組織損傷②
3	上腕部の軟部組織損傷①
4	上腕部の軟部組織損傷②
5	肘関節部の軟部組織損傷①
6	肘関節部の軟部組織損傷②
7	復習
8	中間試験
9	前腕部の軟部組織損傷①
10	前腕部の軟部組織損傷②
11	手関節部の軟部組織損傷①
12	手関節部の軟部組織損傷②
13	手指部の軟部組織損傷
14	復習
15	期末試験



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	軟部組織損傷各論②					担当者名		社 由洋			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	柔道整復師が臨床現場で遭遇する軟部組織損傷についてその特徴を知り、病態、症状および徒手検査法を学び、鑑別できる能力を身につける。										
到達目標	①各損傷の特徴を理解し、他の損傷や疾患との鑑別ができるようになる。 ②評価の構成（問診・視診・動診・検査法）を理解し、患者の状態を正確に評価し記録することが出来る。 ③外傷を未然に防ぐ為の知識を身につける										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	社 由洋（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	股関節部の軟部組織損傷①
2	股関節部の軟部組織損傷②
3	大腿部の軟部組織損傷①
4	大腿部の軟部組織損傷②
5	膝関節部の軟部組織損傷①
6	膝関節部の軟部組織損傷②
7	復習
8	中間試験
9	下腿部の軟部組織損傷①
10	下腿部の軟部組織損傷②
11	足部・趾部の軟部組織損傷①
12	足部・趾部の軟部組織損傷②
13	頭部・体幹の軟部組織損傷①
14	頭部・体幹の軟部組織損傷②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	固定法総論①					担当者名		安部 良太郎			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	巻く相手及び部位に合わせ適切な包帯法を選択し対処できるように反復練習をおこなう。										
到達目標	①柔道整復師の施術が適応する部分について明確に固定ができる知識と技術を修得する。 ②基本包帯法と絆創膏固定が正しい走行で適切に行える。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	安部 良太郎（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	包帯固定学		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画										
1	基本包帯復習 冠名包帯復習①										
2	基本包帯復習 冠名包帯復習②										
3	基本包帯復習 冠名包帯復習③										
4	基本包帯復習 冠名包帯復習④										
5	基本包帯復習 冠名包帯復習⑤										
6	基本包帯復習 冠名包帯復習⑥										
7	基本包帯復習 冠名包帯復習⑦										
8	テーピング 足関節バスケットウィーブ										
9	テーピング 足関節バスケットウィーブ										
10	テーピング 足関節 フィギュアエイト・ヒールロック										
11	テーピング 足関節 フィギュアエイト・ヒールロック										
12	テーピング 足関節 膝関節Xサポートテープ										
13	テーピング 足関節 膝関節Xサポートテープ										
14	総復習										
15	期末試験										

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	固定法総論②					担当者名		水江 弘太/山根 弘樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	巻く相手および部位に合わせて適切な包帯と包帯法を選択し、対処できるように反復練習を行う。										
到達目標	①柔道整復師の施術が適応する部分について明確に固定ができる知識と技術を修得する。 ②基本包帯法と絆創膏固定が正しい走行で適切に行える。 ③副子の役割や固定中の合併症を理解し、的確な固定法が選択できるようになる。										
成績評価	定期試験および受講態度・理解度等を総合的に評価します。										
その他	水江 弘太、山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	包帯固定学	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	クラーメル副子の作成 下腿骨幹部
2	クラーメル副子を用いた固定 下腿骨幹部
3	プライトンの作成 足関節
4	プライトンを用いた固定 足関節
5	吸水硬化性キャスト材の作成 （前腕～手関節）
6	吸水硬化性キャスト材を用いた固定 （前腕～手関節）②
7	厚紙副子を用いた固定（肋骨+肩関節脱臼）
8	厚紙副子を用いた固定② （肋骨+肩関節脱臼）
9	アルミ副子の作成 （指）
10	アルミ副子を用いた固定 （指）
11	固定中の留意点（神経障害・循環障害・ショック・阻血症状）
12	固定中の留意点（神経障害・循環障害・ショック・阻血症状）
13	基本包帯法の復習①
14	基本包帯法の復習②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	治療法総論					担当者名		越智 建太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
到達目標	①柔道整復師の施術が適応する部分についての的確に評価・鑑別・施術できる。 ②重度の外傷に遭遇した場合を想定し、他の骨折、脱臼についても適切に判断し以下と連携が取れる知識を修得する。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	越智 建太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	診察法
2	治療計画 施術録について
3	骨折の整復法
4	脱臼の整復法
5	軟部組織損傷の治療法
6	固定法①
7	固定法②
8	中間試験
9	後療法① 手技療法
10	後療法② 運動療法
11	後療法③ 物理療法
12	指導管理
13	外傷の予防①
14	外傷の予防②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	基礎柔道整復学1					担当者名		村岡 太介				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	臨床現場で必要となる知識および技術を向上させる。ここでは体表解剖を中心に触診を主とした知識および技能の習得を図る。											
到達目標	①解剖学や生理学の理解に基づき、基本の診察法（医療面接）が実践できる。 ②施術の介助を修得する。											
成績評価	授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。											
その他	村岡 太介（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法
2	人体の観察法
3	基本診察法
4	診察概論
5	医療面接、医療面接演習
6	医療面接、医療面接演習
7	診察の順序、診察の演習
8	診察の順序、診察の演習
9	筆記と実技による中間試験
10	視診
11	問診、触診
12	打診、聴診
13	診察演習
14	診察演習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	基礎柔道整復学2					担当者名		村岡 太介			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	臨床現場で必要となる知識および技術を向上させる。ここでは体表解剖を中心に触診を主とした知識および技能の習得を図る。										
到達目標	①解剖学や生理学の理解に基づき、基本の診察法（医療面接）が実践できる。 ②施術の介助を修得する。 ③実践した医療面接について正しく記録ができる。										
成績評価	授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。										
その他	村岡 太介（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法②
2	人体の観察法②
3	基本診察法②
4	診察概論②
5	医療面接、医療面接演習②
6	医療面接、医療面接演習②
7	診察の順序、診察の演習②
8	診察の順序、診察の演習②
9	筆記と実技による中間試験②
10	視診②
11	問診、触診②
12	打診、聴診②
13	診察演習②
14	診察演習②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	基礎柔道整復学3					担当者名		村岡 太介			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	臨床現場で必要となる知識および技術を向上させる。ここでは体表解剖を中心に触診を主とした知識および技能の習得を図る。										
到達目標	①解剖学や生理学の理解に基づき、基本の診察法（医療面接）が実践できる。 ②施術の介助を修得し、神経血管損傷の有無が安全に実施できる。 ③実践した医療面接について正しく記録ができる。										
成績評価	授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。										
その他	村岡 太介（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法③
2	人体の観察法③
3	基本診察法③
4	診察概論③
5	医療面接、医療面接演習③
6	医療面接、医療面接演習③
7	診察の順序、診察の演習③
8	診察の順序、診察の演習③
9	筆記と実技による中間試験③
10	視診③
11	問診、触診③
12	打診、聴診③
13	診察演習③
14	診察演習③
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	頭部・体幹・上肢帯の骨折					担当者名		桑野 幸仁			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
到達目標	①頭部・体幹・上肢帯の骨折の発生機序、症状、鑑別のポイントを説明できる。 ②損傷の部位と状態、位置を正確に把握し示すことが出来る。 ③具体的な治療計画を立てることが出来る。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	桑野 幸仁（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版		(公社) 全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	頭部・顔面部の解剖と機能
2	頭部・顔面の骨折
3	頸部・胸背部・腰部の解剖と機能
4	頸椎・胸椎・腰椎の骨折
5	胸骨骨折
6	肋骨骨折①
7	肋骨骨折①
8	中間試験
9	鎖骨・肩甲骨の解剖と機能
10	鎖骨骨折①
11	鎖骨骨折②
12	肩甲骨骨折①
13	肩甲骨骨折②
14	復習
15	期末試験



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	上腕の骨折					担当者名		桑野 幸仁			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
到達目標	①上腕の骨折の発生機序、症状、鑑別のポイントを説明できる。 ②損傷の部位と状態、位置を正確に把握し示すことが出来る。 ③具体的な治療計画を立てることが出来る。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	桑野 幸仁（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版		(公社) 全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画
1	上腕部の解剖と機能
2	上腕骨近位部の骨折①
3	上腕骨近位部の骨折②
4	上腕骨近位部の骨折③
5	上腕骨幹部骨折①
6	上腕骨幹部骨折②
7	復習
8	中間試験
9	肘関節部の解剖と機能
10	上腕骨遠位部の骨折①
11	上腕骨遠位部の骨折②
12	上腕骨遠位部の骨折③
13	上腕骨遠位部の骨折④
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	前腕・手部の骨折					担当者名		黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
到達目標	①前腕部の骨折の発生機序、症状、鑑別のポイントを説明できる。 ②損傷の部位と状態、位置を正確に把握し示すことが出来る。 ③具体的な治療計画を立てることが出来る。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	前腕部の解剖と機能
2	前腕骨近位部の骨折①
3	前腕骨近位部の骨折②
4	前腕部骨幹部骨折①
5	前腕部骨幹部骨折②
6	前腕遠位端部骨折①
7	前腕遠位端部骨折②
8	中間試験
9	手根骨骨折①
10	手根骨骨折②
11	中手骨骨折①
12	中手骨骨折②
13	指骨骨折①
14	指骨骨折②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	下肢の骨折①					担当者名		桑野 幸仁			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
到達目標	①下肢の骨折の発生機序、症状、鑑別のポイントを説明できる。 ②損傷の部位と状態、位置を正確に把握し示すことが出来る。 ③具体的な治療計画を立てることが出来る。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	桑野 幸仁（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	下肢の解剖と機能①
2	下肢の解剖と機能②
3	骨盤骨骨折①
4	骨盤骨骨折②
5	大腿骨近位端部骨折①
6	大腿骨近位端部骨折②
7	復習
8	中間試験
9	大腿骨近位端部骨折③
10	大腿骨骨幹部骨折
11	大腿骨遠位端部骨折①
12	大腿骨遠位端部骨折②
13	膝蓋骨骨折
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	下肢の骨折②					担当者名		桑野 幸仁 黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
到達目標	①下肢の骨折の発生機序、症状、鑑別のポイントを説明できる。 ②損傷の部位と状態、位置を正確に把握し示すことが出来る。 ③具体的な治療計画を立てることが出来る。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	桑野 幸仁、黒木 文葉 （柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	下肢の解剖と機能
2	下腿骨近位端部骨折①
3	下腿骨近位端部骨折②
4	下腿骨骨幹部骨折①
5	下腿骨骨幹部骨折②
6	下腿遠位端部骨折①
7	下腿遠位端部骨折②
8	中間試験
9	下腿遠位端部骨折③
10	足根骨骨折①
11	足根骨骨折②
12	中足骨骨折①
13	中足骨骨折②足趾骨折
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	上肢の脱臼					担当者名		越智 建太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	「柔道整復学 - 理論編」に基づいて、脱臼学総論および各論を講義する。										
到達目標	①上肢の脱臼の発生機序、症状、鑑別のポイントを説明できる。 ②損傷の部位と状態、位置を正確に把握し示すことが出来る。 ③具体的な治療計画を立てることが出来る。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	越智 建太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	脱臼学総論
2	鎖骨部の脱臼①
3	鎖骨部の脱臼②
4	肩関節脱臼①
5	肩関節脱臼②
6	肩関節脱臼③
7	復習
8	中間試験
9	肘関節脱臼①
10	肘関節脱臼②
11	手関節部の脱臼①
12	手関節部の脱臼②
13	手指部の脱臼①
14	手指部の脱臼②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	下肢の脱臼					担当者名		越智 建太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
到達目標	①下肢の脱臼の発生機序、症状、鑑別のポイントを説明できる。 ②損傷の部位と状態、位置を正確に把握し示すことができる。 ③具体的な治療計画を立てることができる。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他	越智 建太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	下肢の解剖と機能 股関節の脱臼①
2	股関節の脱臼①
3	膝蓋骨脱臼①
4	膝関節脱臼（それに伴う複合靱帯）
5	足部の脱臼
6	足根部の脱臼・足趾部の脱臼
7	復習
8	中間試験
9	顎関節脱臼
10	顎関節脱臼整復固定法
11	頸椎の脱臼
12	胸椎の脱臼・腰椎の脱臼
13	復習1
14	復習2
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	臨床演習1					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	柔道整復師の臨床現場で遭遇する機会の多い疾患を中心に、その診察法および処置法について実技を通して知識および技能を習得する。										
到達目標	①柔道整復師としての業務範囲可否かを説明できる。 ②各疾患の検査法、整復法、固定法、後療法を説明できる。										
成績評価	期末試験、授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。										
その他	半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-実技編	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	柔道整復師の業務
2	骨折の施術①
3	骨折の施術②
4	骨折の施術③
5	脱臼の施術①
6	脱臼の施術②
7	脱臼の施術③
8	軟部組織損傷の施術（打撲）①
9	軟部組織損傷の施術（打撲）②
10	軟部組織損傷の施術（挫傷）①
11	軟部組織損傷の施術（挫傷）②
12	軟部組織損傷の施術（捻挫）①
13	軟部組織損傷の施術（捻挫）②
14	総復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	臨床演習2					担当者名		越智 建太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	柔道整復師の臨床現場で必要となる、診察法及び検査法について知識および技能を習得する。主にROM・MMTの計測、各種徒手検査の評価・実施について学習する。										
到達目標	①徒手検査法の実践が安全に正しく行える。 ②関節可動域測定（ROM）の実施に関しての基本的な知識を修得し、安全に行える。 ③徒手筋力検査（MMT）の基本的な知識を修得できる。										
成績評価	原則として小テスト、定期試験および追・再試験の結果を総合的に評価する。										
その他	越智 建太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	各種徒手検査法①（復習）
2	各種徒手検査法②
3	ROM測定① （ ROM計測方法と基礎知識 基本軸・移動軸・参考可動域角度 等）
4	ROM測定② （ 肘関節 屈曲・伸展 ）
5	ROM測定③ （ 膝関節 屈曲・伸展）
6	ROM測定④ （ 肩関節 屈曲・伸展 ）
7	ROM測定⑤ （ 肩関節 屈曲・伸展 ）
8	ROM測定⑥ （ 肩関節 外転・内転 ）
9	ROM測定⑦ （ 手関節 背屈・掌屈 ）
10	ROM測定⑧ （ 足関節 屈曲・伸展 ）
11	復習
12	MMT測定①（ 筋力測定法・筋力増強訓練法・MMT測定の実施）
13	MMT測定②（ MMT測定の実施 ）
14	復習
15	期末試験



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	臨床演習3					担当者名		宮越 亮典				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	柔道整復師の臨床現場で必要となる、診察法および後療法について知識および技能を習得する。主にレントゲン画像の見方や上肢や下肢のストレッチ法を学習する。											
到達目標	①上肢・下肢の関節の損傷予防（ストレッチ・トレーニング）が実施できる。 ②レントゲン画像読影についての基礎を理解し修得できる。											
成績評価	原則として小テスト、定期試験および追・再試験の結果を総合的に評価する。											
その他	宮越 亮典（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	施術録の記載
2	施術録の記載②
3	レントゲン画像読影
4	レントゲン画像読影②
5	レントゲン画像読影③
6	後療法の種類と特徴① （物理療法）
7	後療法の種類と特徴② （物理療法）
8	後療法の種類と特徴③ （ストレッチ ）
9	後療法の種類と特徴④ （ ストレッチ ）
10	後療法の種類と特徴⑤（ トレーニング ）
11	後療法の種類と特徴⑥（ トレーニング ）
12	実技練習
13	実技練習②
14	実技練習③
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	総合柔道整復学①					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
到達目標	①医療面接（問診）の手順を学び、患者の訴えを的確に把握できるようになる。 ②上肢・体幹の検査や測定法の目的と手順を理解し、疑われる疾患・傷病に応じた検査を実施できる。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法
2	医療面接、医療面接演習
3	診察の順序、診察の演習
4	頭部および顔面部の診察
5	頸背部の触診 頸部の診察
6	背部の診察
7	肩部・腰部の触診
8	中間試験
9	肩部の診察
10	上腕部・肘部の触診
11	前腕部・手部の触診 前腕部の診察
12	手部の診察
13	手指部・胸部の触診
14	前腕部・手部の触診 前腕部の診察
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	総合柔道整復学②					担当者名		黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
到達目標	①医療面接（問診）の手順を学び、患者の訴えを的確に把握できるようになる。 ②下肢の検査や測定法の目的と手順を理解し、疑われる疾患・傷病に応じた検査を実施できる。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	股部の診察
2	殿部の診察
3	大腿部の診察
4	膝部の診察①
5	膝部の診察②
6	下腿部の診察
7	足部の診察 足指部の診察
8	中間試験
9	診察シミュレーション①
10	診察シミュレーション②
11	診察シミュレーション③
12	鑑別診断の手法①
13	鑑別診断の手法②
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	総合柔道整復学③					担当者名		山田 真人			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
到達目標	①軟部組織損傷について類似疾患との鑑別のポイントや具体的な治療計画を立てることが出来る。 ②頸部・肩部の検査法の結果を記録することが出来る。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	山田 真人（病院整形外科において整形外科医として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手検査法の種類①
2	徒手検査法の種類②
3	徒手検査法①
4	徒手検査法②
5	徒手検査法③
6	徒手検査法④
7	徒手検査 演習
8	中間試験
9	頸部の検査法演習
10	肩部の検査法演習
11	肘部の検査法演習
12	手部の検査法演習
13	総合演習①
14	総合演習②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
					○						
授業科目名	総合柔道整復学④					担当者名		宇田津 明彦			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
到達目標	①軟部組織損傷について類似疾患との鑑別のポイントや具体的な治療計画を立てることが出来る。 ②下肢の検査法の結果を記録することが出来る。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	宇田津 明彦（実務経験なし）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手検査法の種類①
2	徒手検査法の種類②
3	徒手検査法①
4	徒手検査法②
5	徒手検査法③
6	徒手検査法④
7	徒手検査 演習
8	中間試験
9	腰部の検査法演習
10	股部の検査法演習
11	膝部の検査法演習
12	下腿部の検査法演習
13	足部の検査法演習
14	総合演習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
					○						
授業科目名	総合柔道整復学⑤					担当者名		黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
到達目標	①代表的な骨折、脱臼の発生機序の理解、類似損傷との鑑別のポイント、具体的な治療計画（整復法、検査法、評価法、固定法、後療法、可動域訓練、筋力増強訓練、指導管理、治療日程）を立てることが出来る。 ②患者に対して治療計画を説明できる										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	鎖骨骨折の考え方と整復法
2	肩鎖関節脱臼の考え方と整復法
3	上腕骨外科頸骨折の考え方と整復法
4	橈骨遠位端部骨折の考え方と整復法 小児の橈骨遠位骨端線離開の考え方と整復法
5	手指骨骨折の考え方と整復法
6	母指MP関節脱臼の考え方と整復法 手指PIP関節脱臼の考え方と整復法
7	肩関節脱臼の考え方と整復法
8	中間試験
9	肘関節脱臼の考え方と整復法
10	股関節脱臼の考え方と整復法
11	膝蓋骨脱臼の考え方と整復法
12	膝蓋骨骨折の考え方と整復法 下腿骨骨幹部骨折の考え方と整復法
13	足指骨骨折の考え方と整復法 足関節果部骨折の考え方と整復法
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校						
					○		令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部						
授業科目名	総合柔道整復学⑥					担当者名		社 由洋/新地 秀臣/山根 弘樹/黒木 文葉					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次		
単位数		1			授業時間数		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
												30	
授業概要	“柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防”												
到達目標	①代表的な軟部組織損傷の発生機序の理解、類似損傷との鑑別のポイント、具体的な治療計画（検査法、評価法、固定法、後療法、可動域訓練、筋力増強訓練、指導管理、治療日程）を立てることが出来る。 ②患者に対して治療計画を説明できる												
成績評価	“中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。”												
その他	社 由洋/新地 秀臣/山根 弘樹/黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）												

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		(公社) 全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		(公社) 全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	医療面接の方法論
2	医療面接演習
3	診察の進め方
4	診察の進め方演習
5	鑑別診断の方法
6	鑑別診断演習 1
7	鑑別診断演習 2
8	中間試験
9	徒手整復の種類と方法論
10	徒手整復演習①
11	徒手整復演習②
12	頸部背部腰部軟部組織損傷に対する診察法と処置法
13	上肢の軟部組織損傷に対する診察法と処置法
14	下肢の軟部組織損傷に対する診察法と処置法
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学⑦					担当者名		山田 真人/半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	教科書を中心に臨床的内容も豊富に講義する。										
到達目標	①代表的な疾患の発生機序の理解、類似損傷との鑑別のポイント、具体的な治療計画（検査法、評価法、固定法、後療法、可動域訓練、筋力増強訓練、指導管理、治療日程）を立てることが出来る。 ②患者に対して治療計画を説明できる。										
成績評価	”中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。”										
その他	半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）山田 真人（病院整形外科において整形外科医として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	診察法
2	治療計画 施術録について
3	骨折の整復法
4	脱臼の整復法
5	軟部組織損傷の治療法
6	固定法①
7	固定法②
8	中間試験
9	後療法① 手技療法
10	後療法② 運動療法
11	後療法③ 物理療法
12	指導管理
13	外傷の予防①
14	外傷の予防②
15	期末試験





科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	総合柔道整復学⑧					担当者名		社 由洋/黒木 文葉/半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	教科書を中心に臨床的内容も豊富に講義する。										
到達目標	①2年次までに修得した知識を基礎とし、運動器疾患の種類、診断法、治療法について学び、柔道整復学と整形外科学の関係を理解することで、他の疾患との鑑別をすることができる。										
成績評価	"中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。"										
その他	社 由洋/黒木 文葉/半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	整形外科学		（社）全国柔道整復学校協会		医歯薬出版
参考図書	標準整形外科学		監修 国分正一 ほか		医学書院

回数	授 業 計 画
1	運動器の基礎知識
2	整形外科診察法
3	整形外科検査法
4	整形外科的治療法
5	骨関節損傷総論
6	疾患別各論①
7	疾患別各論②
8	中間試験
9	疾患別各論 神経筋疾患
10	身体部位各論①
11	身体部位各論②
12	身体部位各論③
13	身体部位各論④
14	身体部位各論⑤
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	総合柔道整復学⑨					担当者名		山根 弘樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	人間の運動に関する基本的な知識を習得する。主に力学や運動器の構造機能、姿勢、歩行、上肢や下肢の運動、脊柱の運動、下肢帯と下肢の運動、上肢帯と上肢の運動について学習する。										
到達目標	①2年次までに修得した知識を基礎とし、各疾患の原因、症状、検査所見、治療、予防といった病態生理を理解し、医療面接における患者所見から鑑別診断を行うことができる。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	山根弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動学 第3版	斉藤宏ほか著	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	運動学の定義
2	上肢帯 ・ 上肢の構造 総論 上肢帯 肩関節
3	肘関節の運動 筋 手関節の運動
4	股関節の運動 膝関節の運動
5	体幹の運動
6	呼吸筋
7	神経
8	中間試験
9	反射と随意運動
10	小脳・機能
11	姿勢 歩行 運動発達 運動学習①
12	姿勢 歩行 運動発達 運動学習②
13	総演習
14	総演習②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	柔整実技1①					担当者名		越智 建太/山根 弘樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	様々な固定法、被覆法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①臨床現場を想定して、総合的・基本的な思考力や判断力を身につける。 ②固定の目的・範囲・肢位および固定施行時の一般原則を理解する。 ③包帯を素早く・しっかり・丁寧に巻けるようになる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	越智 建太/山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	包帯固定学	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画										
1	オリエンテーション 巻軸包帯の巻き方と注意事項 巻軸包帯のまき直し 本包帯法（環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯）										基
2	前回の復習（15分） 前腕部の折転帯・下腿部の折転帯										
3	前回の復習（15分） 前腕部の折転帯・下腿部の折転帯										
4	前回の復習（15分） 肘関節の亀甲帯・膝の亀甲帯										
5	前回の復習（15分） 肘関節の亀甲帯・膝の亀甲帯										
6	前回の復習（15分） 肩関節の麦穂帯・股関節の麦穂帯										
7	前回の復習（15分） 肩関節の麦穂帯・股関節の麦穂帯 入室方法について										
8	確認テスト										
9	前回の復習（15分） 胸背部十字帯										
10	前回の復習（15分） 指・手関節の麦穂帯 指頭包か帯										
11	前回の復習（15分） 足関節の亀甲帯・麦穂帯										
12	全体復習 入室確認										
13	プレ試験										
14	総復習										
15	期末試験										

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技1②					担当者名		越智 建太、山根 弘樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	様々な固定法、被覆法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①臨床現場を想定して、総合的・基本的な思考力や判断力を身につける。 ②固定の目的・範囲・肢位および固定施行時の一般原則を理解する。 ③テーピングを素早く・しっかり・丁寧に巻けるようになる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	越智 建太、山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	包帯固定学		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書					

回数	授 業 計 画										
1	デゾー包帯法										
2	デゾー包帯法										
3	テープ固定 ①バスケットウィーブ										
4	デゾー包帯法 復習										
5	テープ固定 ②フィギュアエイト・ヒールロック										
6	前回の復習15分 ジュール包帯法										
7	テープ固定 ①②確認										
8	前回の復習15分 ヴェルポー包帯法										
9	テープ固定 ③内側側副靱帯固定										
10	ジュール包帯法・ヴェルポー包帯法復習										
11	テープ固定 ①②③確認										
12	デゾー包帯法 復習										
13	総復習										
14	期末試験										
15	期末試験										

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技2					担当者名		水江 弘太				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	臨床現場で必要となる知識や技術の向上を図る。ここでは骨や筋の構造を十分に理解しこれを体表から触察する能力を身に付ける。											
到達目標	①骨や筋、関節の構造を理解し、骨ランドマークや筋の起始停止作用の理解を深めて、関節の運動について説明できるようになる。②実際に身体に触れてみて、その部位の名称を答えられるようになる。 ③正常な構造等を学ぶことで、何が異常なのか鑑別出来るようになる											
成績評価	定期試験および受講態度・理解度等を総合的に評価します。											
その他	水江 弘太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書	骨格筋の形と触察法	河上敬介、磯貝香	大峰閣

回数	授 業 計 画
1	触診の仕方
2	骨の触察1（鎖骨、胸鎖関節、胸骨頸切痕、胸骨柄、胸骨角、剣状突起、烏口突起）
3	骨の触察1 復習
4	骨の触察2（肩甲骨下角、内側縁、上角、外側縁、肩甲棘、肩峰）
5	骨の触察2 復習
6	骨の触察3（上腕骨大結節、小結節、結節間溝、内側上顆、外側上顆）
7	骨の触察3（尺骨、橈骨、肘頭、茎状突起、橈骨後結節）
8	骨の触察4（手根骨、手指、豆状骨、第1中手骨手根骨、第2・3・5中手骨底）
9	骨の触察5（骨盤、上前腸骨棘、下前腸骨棘、腸骨稜、坐骨結節）
10	骨の触察6（大腿骨、膝蓋骨、大転子、外側上顆、内側上顆、内転筋結節）
11	骨の触察7（脛骨、腓骨、脛骨粗面、膝蓋靱帯、脛骨前縁、脛骨後内側縁、脛骨外側縁、腓骨頭、内果、外果）
12	骨の触察8（足部、第5中足骨底）
13	総復習
14	総復習（試験形式）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	柔整実技3①					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	柔道整復師の臨床現場で遭遇する機会の多い疾患を中心に、その診察法および処置法について実技を通して知識および技能を習得する。										
到達目標	①患者に対する接遇方法を身につける。 ②医療面接の手順を学び、患者の訴えを的確に把握できる。 ③検査や測定法の目的と手順を理解し、疑われる疾患傷病に応じた検査等を実践できる。										
成績評価	期末試験、授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。										
その他	半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-実技編	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、患者さんとの向き合い方、体表解剖、触診（上肢、下肢）、バイタルサイン
2	腱板損傷 検査法、上腕二頭筋腱損傷 検査法
3	ハムストリングス・大腿四頭筋・下腿三頭筋肉離れ損傷 検査法
4	膝関節損傷 側副靱帯／半月板／十字靱帯損傷 検査法
5	足関節外側側副靱帯損傷 検査法 、本番形式練習
6	鎖骨骨折 定型的整復法
7	肩鎖関節脱臼整復法
8	肩関節脱臼整復法
9	上腕骨外科頸部骨折整復法
10	肘関節後方脱臼整復法
11	コーレス骨折整復法、肘内障整復法
12	本番形式練習
13	プレ試験
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技3②					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	柔道整復師の臨床現場で遭遇する機会の多い疾患を中心に、その診察法および処置法について実技を通して知識および技能を習得する。										
到達目標	①診察法や整復法、固定法の意義を理論的に理解する。 ②実際の損傷を想定して処置を行い、臨床現場において各損傷に対処出来るようになる。										
成績評価	期末試験、授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。										
その他	半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	鎖骨骨折 固定法
2	肋骨骨折 固定法
3	肩関節脱臼 固定法
4	上腕骨骨幹部骨折 固定
5	肘関節脱臼 固定 肩鎖関節脱臼 絆創膏固定
6	コーレス骨折 固定
7	第2指PIP関節背側脱臼・第5指中手骨頸部骨折固定（アルミ副子背側固定・アルミ副子掌側固定）
8	確認試験
9	下腿骨骨幹部骨折クラーメル副子固定・アキレス腱断裂クラーメル固定
10	足関節外側側副靱帯損傷 局所副子固定・テーピング固定（バスケットウィーブ・フギュアエイト）
11	膝内側側副靱帯損傷テーピング固定（Xサポート）
12	復習
13	プレ試験
14	復習
15	期末試験



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技4					担当者名		黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①柔道整復師としての臨床現場を想定した整復・固定・接遇を修得できる。 ②認定実技審査で出題される範囲の整復・固定法について、その意義や重要点を理解する。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、骨折総論・触診
2	鎖骨骨折整復
3	鎖骨骨折固定
4	上腕骨外科頸骨折整復
5	上腕骨外科頸骨折固定
6	コーレス骨折整復①
7	コーレス骨折整復②
8	コーレス骨折固定
9	肋骨骨折固定
10	第5中手骨骨折固定
11	下腿骨骨幹部骨折固定
12	復習
13	プレ試験
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技5					担当者名		山根 弘樹/得本 啓次			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①柔道整復師としての臨床現場を想定した整復・固定・接遇を修得できる。 ②認定実技審査で出題される範囲の整復・固定法について、その意義や重要点を理解する。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	得本 啓次（実務経験なし）、山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション・脱臼総論・触診
2	肩鎖関節脱臼整復
3	肩鎖関節脱臼固定
4	肩関節脱臼整復①
5	肩関節脱臼整復②
6	肩関節脱臼固定
7	肘関節脱臼整復
8	肘関節脱臼固定
9	肘内障整復
10	第2指PIP関節脱臼固定
11	復習
12	復習
13	プレ試験
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技6					担当者名		社 由洋			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な検査法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①柔道整復師としての臨床現場を想定した検査法・接遇を修得できる。 ②認定実技審査で出題される範囲の整復・固定法について、その意義や重要点を理解する。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	社 由洋（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション・軟部組織損傷総論・触診
2	肩腱板損傷検査法
3	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法
4	ハムストリングス損傷（肉離れ）検査法
5	大腿四頭筋打撲検査法
6	膝関節側副靱帯損傷検査法
7	膝関節十字靱帯損傷検査法
8	膝関節半月板損傷検査法
9	下腿三頭筋損傷（肉離れ）検査法
10	足関節外側靱帯損傷検査法
11	口頭試問対策（鑑別・合併症）
12	復習
13	プレ試験
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	柔整実技7①					担当者名		黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①柔道整復師との施術が適応する部分についての的確に評価・鑑別・施術ができる知識を修得する。 ②上肢・体幹の各疾患の発生機序、症状、その他の特徴について理解し説明ができる。 ③類似疾患との鑑別をし、的確な治療法が選択できるようになる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法
2	医療面接、医療面接演習
3	診察の順序、診察の演習
4	頭部および顔面部の診察
5	頸背部の触診 頸部の診察 背部の診察
6	肩部・腰部の触診
7	腰部の診察
8	肩部の診察
9	上腕部・肘部の触診
10	上腕部の診察 肘部の診察
11	前腕部・手部の触診診察
12	手指部・胸部の触診
13	手指部の診察
14	胸部の診察
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7②					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①柔道整復師との施術が適応する部分についての的確に評価・鑑別・施術ができる知識を修得する。 ②下肢の各疾患の発生機序、症状、その他の特徴について理解し説明ができる。 ③類似疾患との鑑別をし、的確な治療法が選択できるようになる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	股部の診察
2	股部の診察
3	大腿部の診察
4	膝部の診察
5	下腿部の診察
6	足部の診察
7	足指部の診察
8	足指部の診察
9	診察シミュレーション①
10	診察シミュレーション②
11	鑑別診断の手法①
12	鑑別診断の手法②
13	徒手検査法①
14	徒手検査法②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7③					担当者名		黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①柔道整復師との施術が適応する部分についての的確に評価・鑑別・施術ができる知識を修得する。 ②各疾患の発生機序、症状、その他の特徴について理解し説明ができる。 ③類似疾患との鑑別をし、的確な治療法が選択できるようになる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手検査法の種類
2	頸部の検査法
3	頸部の検査法演習
4	肩部の検査法
5	肩部の検査法演習
6	肘部の検査法
7	肘部の検査法演習
8	手部の検査法
9	手部の検査法演習
10	股部の検査法と演習
11	膝部の検査法
12	膝部の検査法演習
13	足部の検査法
14	足部の検査法演習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7④					担当者名		村岡 太介			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①柔道整復師との施術が適応する部分についての的確に評価・鑑別・施術ができる知識を修得する。 ②関節可動域計測について基礎知識の復習と実践、現場を想定した応用ができる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	村岡 太介（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		（公社）全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手検査法の種類
2	頸部の関節可動域計測
3	頸部の関節可動域計測実技
4	肩関節の関節可動域計測
5	肩関節の関節可動域計測実技
6	肘関節の関節可動域計測
7	肘関節の関節可動域計測実技
8	前腕の関節可動域計測
9	前腕の関節可動域計測実技
10	手関節の関節可動域計測
11	手関節の関節可動域計測実技
12	手指関節の関節可動域計測
13	手指関節の関節可動域計測実技
14	体幹の関節可動域計測
15	体幹の関節可動域計測実技

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑤					担当者名		半田 光、黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
到達目標	①代表的な骨折、脱臼の発生機序の理解、類似損傷との鑑別のポイント、具体的な治療計画（整復法、検査法、評価法、固定法、後療法、可動域訓練、筋力増強訓練、指導管理、治療日程）を立てることが出来る。 ②患者に対して治療計画を説明できる。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	半田 光、黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	鎖骨骨折の考え方と整復法
2	肩鎖関節脱臼の考え方と整復法
3	上腕骨外科頸骨折の考え方と整復法
4	橈骨遠位端部骨折の考え方と整復法 小児の橈骨遠位骨端線離開の考え方と整復法
5	手指骨骨折の考え方と整復法
6	母指MP関節脱臼の考え方と整復法 手指PIP関節脱臼の考え方と整復法
7	肩関節脱臼の考え方と整復法
8	中間試験
9	肘関節脱臼の考え方と整復法
10	股関節脱臼の考え方と整復法
11	膝蓋骨脱臼の考え方と整復法
12	膝蓋骨骨折の考え方と整復法 下腿骨骨幹部骨折の考え方と整復法
13	足指骨骨折の考え方と整復法 足関節果部骨折の考え方と整復法
14	復習
15	期末試験



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑥					担当者名		半田 光/黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①臨床現場を想定して、総合的・基本的な思考力や適切な判断力を見につける。 ②1.2年次で修得した知識を基礎とし、上肢の疾患や損傷に対し徒手筋力検査を行うことができる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	半田 光/黒木 文葉（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手筋力検査法概論
2	徒手筋力検査法の方法論①
3	徒手筋力検査法の方法論②
4	頸部の徒手筋力検査法
5	頸部の徒手筋力検査法実技
6	肩部の徒手筋力検査法
7	肩部の徒手筋力検査法実技
8	肘部の徒手筋力検査法
9	肘部の徒手筋力検査法実技
10	前腕部の徒手筋力検査法
11	前腕部の徒手筋力検査法実技
12	手部の徒手筋力検査法
13	手部の徒手筋力検査法実技
14	指部の徒手筋力検査法
15	指部の徒手筋力検査法実技

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	柔整実技7⑦					担当者名		山田 真人、宮越 亮典、水江 弘太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①臨床現場を想定して、総合的・基本的な思考力や適切な判断力を見につける。 ②1.2年次で修得した知識を基礎とし、下肢の疾患や損傷に対し徒手筋力検査を行うことができる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	宮越 亮典、水江 弘太（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）山田 真人（病院整形外科において整形外科医として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	体幹の徒手筋力検査法
2	体幹の徒手筋力検査法実技
3	股部の徒手筋力検査法
4	股部の徒手筋力検査法実技
5	膝部の徒手筋力検査法
6	膝部の徒手筋力検査法実技
7	足部の徒手筋力検査法
8	足部の徒手筋力検査法実技
9	足指部の徒手筋力検査法
10	足指部の徒手筋力検査法実技
11	徒手筋力検査法による評価法①
12	徒手筋力検査法による評価法②
13	各疾患にみられる徒手筋力検査結果①
14	各疾患にみられる徒手筋力検査結果②
15	各疾患にみられる徒手筋力検査結果③

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑧					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①臨床現場を想定して、総合的・基本的な思考力や適切な判断力を見につける。 ②1.2年次で修得した知識を基礎とし、単純X線撮影法の説明や評価の実施ができる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	単純X線診断法概論
2	単純X線撮影法
3	単純X線像による評価法
4	頸椎疾患の評価法
5	頸椎疾患の評価実技
6	頸椎疾患に対する処置
7	頸椎疾患に対する処置実技
8	肩部疾患の評価法
9	肩部疾患の評価実技
10	肩部疾患に対する処置
11	肩部疾患に対する処置実技
12	肘部疾患の評価法
13	肘部疾患の評価実技
14	肘部疾患に対する処置
15	肘部疾患に対する処置実技

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑨					担当者名		社 由洋			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	""人間の運動に関する基本的な知識を習得する。主に力学や運動器の構造機能、姿勢、歩行、上肢や下肢の運動、脊柱の運動、下肢帯と下肢の運動、上肢帯と上肢の運動について学習する。""										
到達目標	①1.2年次で修得した知識を基礎とし、人間の運動に関わる身体の機能と構造を理解し説明できる。 ②現場で想定される運動器の障害について、基礎的な知識を活かし、現場で応用できる又治療や訓練を実施できる。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他	社 由洋（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動学 第3版	斉藤宏ほか著	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	運動学の定義
2	上肢帯 ・ 上肢の構造 総論 上肢帯 肩関節
3	肘関節の運動 筋 手関節の運動
4	股関節の運動 膝関節の運動
5	体幹の運動
6	呼吸筋
7	神経
8	中間試験
9	反射と随意運動
10	小脳・機能
11	姿勢 歩行 運動発達 運動学習①
12	姿勢 歩行 運動発達 運動学習②
13	総演習
14	総演習②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑩					担当者名		社 由洋			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①1. 2年次で修得した知識を基礎とし、臨床現場で遭遇しやすい疾患の評価や処置が安全に行うことができる。 ②各疾患の症状や合併症などの特徴を患者に対して説明できる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	社 由洋（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	膝部疾患の評価法
2	膝部疾患の評価実技
3	膝部疾患の処置
4	膝部疾患の処置実技
5	足部疾患の評価法
6	足部疾患の評価実技
7	足部疾患の処置
8	足部疾患の処置実技
9	足指部疾患の評価法
10	足指部疾患の評価実技
11	足指部疾患の処置法
12	足指部疾患の処置実技
13	臨床現場で遭遇しやすい疾患の評価法①
14	臨床現場で遭遇しやすい疾患の評価法②
15	総合演習

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑪					担当者名		社 由洋			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	様々な整復法、固定法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①1. 2年次で修得した知識を基礎とし、臨床現場で遭遇しやすい疾患に対して固定具の作成や固定を的確に行うことができる。 ②各疾患の症状や固定中の合併症などの特徴を患者に対して説明できる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	社 由洋（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学－理論編 改訂第6版		全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	固定材料の種類
2	硬性材料の用い方
3	クラーメル副子の作成法
4	患部にあったクラーメル副子の作成法
5	クラーメル副子の作成①
6	クラーメル副子の作成②
7	クラーメル副子の作成③
8	局所副子の用い方
9	局所副子の作成①
10	局所副子の作成②
11	局所副子の作成③
12	アルフェンスシーネを用いた固定
13	アルフェンスシーネの作成①
14	アルフェンスシーネの作成②
15	総合演習

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑫					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	様々な整復法、固定法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①1.2年次で修得した知識を基礎とし、臨床現場で遭遇しやすい疾患に対して固定具の作成や固定を的確に行うことができる。 ②各疾患の症状や固定中の合併症などの特徴を患者に対して説明できる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	半田 光（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	ギプス固定理論
2	ギプスシャーレの作成法
3	ギプスカッターの使用法
4	ギプスの作成①
5	ギプスの作成②
6	ギプスシャーレの作成①
7	ギプスシャーレの作成②
8	キャストライトによる固定理論
9	キャストライトの作成法
10	キャストライトの作成①
11	キャストライトの作成②
12	いろいろな材料を用いた固定理論
13	いろいろな材料を用いた固定実技①
14	いろいろな材料を用いた固定実技②
15	総合演習

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑬					担当者名		山根 弘樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①1. 2年次で修得した知識を基礎とし、臨床現場で遭遇しやすい疾患に対して上肢のテーピング固定を的確に行うことができる。 ②各疾患の症状や固定中の合併症などの特徴を患者に対して説明できる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学－理論編 改訂第6版	全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	テーピング概論
2	テーピングの種類、テーピング手法の種類
3	テーピングによる固定
4	肩部のテーピング理論
5	肩部のテーピング実技
6	肘部のテーピング理論
7	肘部のテーピング実技
8	手部のテーピング理論
9	手部のテーピング実技
10	手指部のテーピング理論
11	手指部のテーピング実技
12	背部のテーピング理論
13	背部のテーピング実技
14	股部のテーピング理論
15	股部のテーピング実技



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 6年度 柔道整復学科 昼間 I 部					
授業科目名	柔整実技7⑭					担当者名		山根 弘樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
到達目標	①1, 2年次で修得した知識を基礎とし、臨床現場で遭遇しやすい疾患に対して下肢のテーピング固定を的確に行うことができる。 ②各疾患の症状や固定中の合併症などの特徴を患者に対して説明できる。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	山根 弘樹（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）										

使用教材	書 籍 名		著 者 名		出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版		全国柔道整復学校協会		南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版		全国柔道整復学校協会		南江堂

回数	授 業 計 画
1	膝部のテーピング理論
2	膝部のテーピング実技
3	足部のテーピング理論
4	足部のテーピング実技
5	足指部のテーピング理論
6	足指部のテーピング実技
7	足底挿板理論①
8	足底挿板理論②
9	“足底挿板の作成”
10	疾患別足底挿板の改良（考え方）
11	疾患別足底挿板の改良（実技）
12	機能的装具理論
13	機能的装具の改良
14	機能的装具の作成
15	“総合演習”

## 臨床実習Ⅰ シラバス

臨床実習	学年	単位	時間数
	1	1	45

担当者 社 由洋 令和6年度  
社 由洋（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）

一般目標	臨床体験、臨床見学を通じて、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を身につける。		
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対して、適切な態度で接する。		
学習内容	大項目	中項目	
	基礎実習	1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける 2) ベットメイキング、衛生面への配慮  <b>【見学実習】</b> 環境準備 患者さんの誘導実施 <b>【体験実習】</b> 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施	
	患者さんに対する対応	1) 患者に適切な対応ができる 2) 患者の抱える問題点に共感できる	
	施術録作成・症例検討	1) 施術録の記載項目を理解できる。	
	保険請求	1) 社会保障制度と受領委任払いの説明ができる	
	評価	個人レポート、臨床実習指導者、実習調整者の評価などを総合的に評価する	

## 臨床実習Ⅱ シラバス

臨床実習	学年	単位	時間数	担当者 社 由洋 社 由洋（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）	令和 6年度
	2	1	45		
一般目標	臨床体験、臨床見学を通じて、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を身につける。				
到達目標	1)臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2)実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3)患者に対して、適切な態度で接する。 4)付帯業務などの課題が解決できる。				
学習内容	大項目		中項目		
	基礎実習		1)柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける 2)医療面接の実施 3)ROM,MMTなどを計測、評価の実施 4)神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5)治療機器の効果、禁忌の理解 6)ベットメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 環境準備 受付業務 患者さんの誘導実施 【体験実習】 医療面接および所見を記載する。		
	患者さんに対する対応		1)患者に適切な対応ができる 2)患者の抱える問題点に共感できる		
	施術録作成・症例検討		1)施術録の作成 2)症例検討の実施		
	保険請求		1)手続きの意義 2)記載方法の実施		
	評価		個人レポート、臨床実習指導者、実習調整者の評価などを総合的に評価する		

## 臨床実習Ⅲ シラバス

臨床実習	学年	単位	時間数	担当者 社 由洋	令和 6年度
	2	1	45	社 由洋	(柔道整復施術所において柔道整復師として勤務)
一般目標	臨床体験、臨床見学を通じて、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を身につける。				
到達目標	1)臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2)実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3)患者に対して、適切な態度で接する。 4)実習指導者に模擬的に行為が実施できる。				
学習内容	大項目		中項目		
	基礎実習		1)柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける 2)医療面接の実施 3)ROM,MMTなどを計測、評価の実施 4)神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5)治療機器の効果、禁忌の理解 6)ベットメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 環境準備 受付業務 患者さんの誘導実施 【体験実習】 臨床実習指導者に対して模擬的に行為を行う。		
	患者さんに対する対応		1)患者に適切な対応ができる 2)患者の抱える問題点に共感できる 3)自己の問題点を抽出し、解決できる。		
	施術録作成・症例検討		1)施術録の作成 2)症例検討の実施		
	保険請求		1)手続きの意義 2)記載方法の実施		
	評価		個人レポート、臨床実習指導者、実習調整者の評価などを総合的に評価する		

## 臨床実習Ⅳ シラバス

臨床実習	学年	単位	時間数	担当者 社 由洋	令和 6年度
	3	1	45	社 由洋	（柔道整復施術所において柔道整復師として勤務）
一般目標	臨床体験、臨床見学を通じて、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を身につける。				
到達目標	1)臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2)実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3)患者に対して、適切な態度で接する。 4)指導・監視下のもと施術の介助ができる。				
学習内容	大項目		中項目		
	基礎実習		1)柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける 2)医療面接の実施 3)ROM,MMTなどを計測、評価の実施 4)神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5)治療機器の効果、禁忌の理解 6)ベットメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 環境準備 受付業務 患者さんの誘導実施 【体験実習】 指導・監視下のもと施術の介助を行う。		
	患者さんに対する対応		1)患者に適切な対応ができる 2)患者の抱える問題点に共感できる 3)自己の問題点を抽出し、解決できる。		
	施術録作成・症例検討		1)施術録の作成 2)症例検討の実施		
	保険請求		1)手続きの意義 2)記載方法の実施		
	評価		個人レポート、臨床実習指導者、実習調整者の評価などを総合的に評価する		